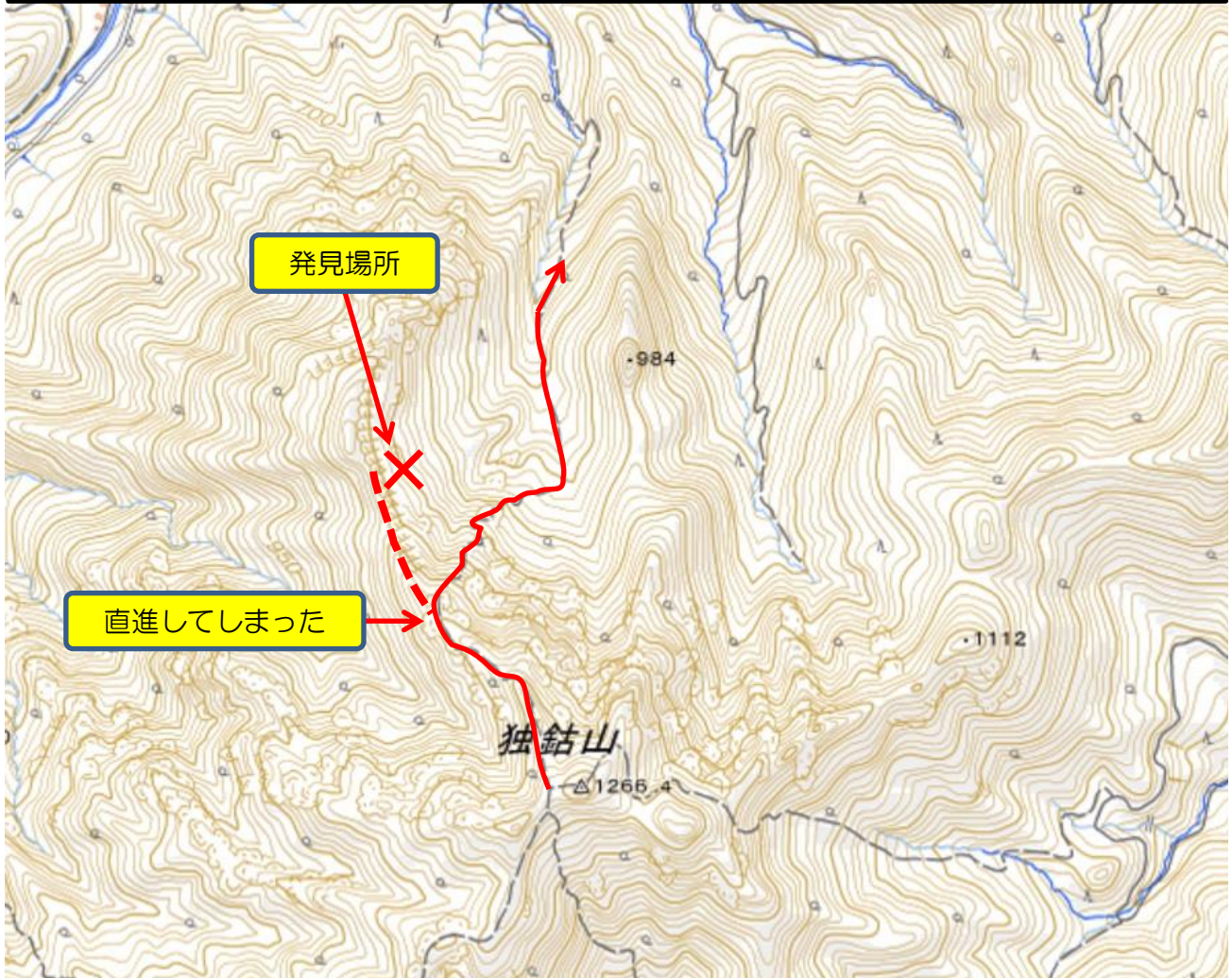


独鈷山遭難(2022年7月)

夫婦で登山の妻(60歳)が、下山途中にはぐれて行方不明。登山道から外れた急斜面で発見されたが、死亡が確認された。



解説

長野県警がヤマレコ上で公開している遭難発生マップによると、女性は独鈷山から北に延びる鉄城山への稜線付近で発見されました。頭部などに外傷があったといえます。

西前山コースを下山すると、標高約1140mの稜線分岐からコースは右に分かれる支尾根に沿って谷に下ります。分岐から直進方向には鉄城山～雨首へのバリエーションルートがありますので、ここに迷い込んだものと推測されます。

このルートは上級者向けの危険なルートでした。夫が先頭を歩いていたとすると、稜線分岐を通過したときにその姿が見えないほど離れてしまっていたのかもしれませんが。登山中にメンバーの姿が見えない状態になるのは危険だというリスク意識を全員が共有する必要があります。(HP参照)

HPのおりだと思います。私の山岳会では暗黙のルールで先頭はリーダーかペース配分のできる経験者。最後尾はサブリーダーか経験者が歩いています。体調不良でバテたときは、荷物を分担したりペースを落としたりします。絶対にバラバラにならないように心がけています。道迷い遭難は「不安」や「焦り」等の冷静さを失ったときにおこります。ご冥福をお祈りするとともに教訓とさせていただきます。